

科目名		担当者氏名	授業形式	単位	開講時期
コミュニケーション論		永杉 徹夫	講義	2	前期(幼) 後期(健)
必修・選択	卒業要件	選択			
	資格要件				
学習目標	コミュニケーションは、生きる上で最も基礎的なことであり、かつ重要事である。そのための「論」であることを念頭に学ぶ。授業を一方的な講義とせず、教師と学生相互のコミュニケーションの場と考え、その中から本質を学び取っていくよう努める。また最新のコミュニケーションについての考え方を学び、その上で自己表現力を高める。臆することなく積極的に受講し、単なる知識の習得に終わることのないよう気をつけ、自らよく考え、よく行動する人間となることを目指す。				
授 業 計 画					
回	項 目	授 業 内 容			
1	対話による概論	講義の進め方と学習法、テキストの読み方			
2	成長と伝え合い	人間成長と伝え合いの技、社会的スキル			
3	自我と社会	組織・集団コミュニケーション、家族のあり方			
4	自己実現と表現	受容と表現、言葉の問題。ネットワークについて			
5	コミュニケーション脳	最新の脳科学。「つながり」の思想			
6	ユーモアと笑い	コミュニケーションとしての笑いの重要性			
7	愛と慈悲	精神と気づき、コミュニケーションの歪み			
8	コミュニケーションのレベル	「コミュニケーション合理性」とは何か			
9	高度情報化社会に生きること	インターネットの威力と功罪、メールについて			
10	マスコミとのつきあい	メディアリテラシー、自由と創造性			
11	育てることの科学	幼児教育とコミュニケーション			
12	食べることの科学	コミュニケーションとしての食			
13	生きることと死ぬこと	人間の一生と、人を見ること、看取ること			
14	日本的ということ	異文化間コミュニケーションについて			
15	討論による結論	学生自身の発見と成果			
参 考 書	齋藤孝著『コミュニケーション力』(岩波新書) 2004 船津衛著『コミュニケーション・入門 [改訂版]』(有斐閣アルマ) 2010				
学習上の注意 (自己学習、学外学習など)	授業ではノートをとり、日常、新聞・雑誌や書物をつとめて読むこと。				
評価の方法と時期	受講態度と、時に授業時間内に書いてもらう作文、定期試験による総合評価。				